

「ハラール」を安易に使用する 現状を改めることが重要な課題

インバウンド 研究所

ようこそ日本へ!

宗教法人 日本ムスリム協会

近年、東南アジアを中心として、数多くのムスリム（イスラム教徒）が来日するようになってきている。それに伴って、礼拝施設の設置も少しずつ進行し、ハラールに対応した食事を提供するレストランなども増えている。だが、イスラム教への無理解、偏見などによって、対応がやや混乱しているケースも少なくないようだ。ムスリムへの配慮として、どのようなことが望まれるのか。宗教法人日本ムスリム協会の徳増公明会長、樋口美作理事、遠藤利夫理事に聞いた。

**ムスリム人口は世界で16億人
最多はインドネシアの2億人**

—— 日本ムスリム協会の設立目的・理念からお聞かせください。

樋口 戦後、インドネシア、マレーシア、中国などの戦地から、日本人ムスリムが帰国しました。代々木上原のモスク（礼拝堂）は戦災を免れていたため、そこに集まって礼拝をしていました。当時の多くの日本人は、イスラム教に対する理解も関心もなく、回教、あるいはマホメット教などと呼ばれていた時代です。そうした戦後の混乱の



左から遠藤理事、徳増会長、樋口理事

なかで、信徒同士が助け合って、信仰を守り続けるために、1952年に誕生したのが日本ムスリム協会です。あくまで宗教法人であり、政治色は持ちません。また、ほかの宗教団体に見られるような、ある特定の教祖的指導者のもとに結成されたものでもありません。

その後、日本では、1973年のオイルショック以降、産油国である中東への関心が急速に高まりました。それを契機として、日本ムスリム協会では、国際交流に力を注ぎ、数多くの留学生も派遣してきました。

徳増 近年、「9・11」「アラブの春」「IS」など、イスラムに関連する国際的な事件が起こっています。その影響で、イスラム教に対する偏見、誤解も生まれています。日本で最初に設立され、最も多くの日本人ムスリムが会員になっている団体として、私たちに、イスラム教の教えをきちんと伝え、偏見を緩和する責任もあると考えています。

—— ムスリムというと中東をイメージしますが、実は世界中に多くの信徒がいるのですね。

樋口 確かに、サウジアラビア、エジプト、リビアなどの中東をイメージしがちかもしれませんが、けれども、全世界で約16億人のムスリムがいます。最も多いのは、インドネシアの2億人を始め、マレーシア、パキスタンなどの東南アジアです。

**礼拝施設は増加しているが
さらなる拡充が望まれる**

—— 最近では東南アジアを中心に、数多くのムスリムが日本に観光で訪れるようになってきています。その際に課題になっていることはありますか。

遠藤 最も大きな課題のひとつが、旅行中の礼拝施設の確保です。最近では、

観光庁の指導もあって、成田国際空

港、羽田空港、関西国際空港などの空

港はじめ、東京ビッグサイト、幕張

メッセなどの国際展示場や、ショッピ

ングモール、百貨店などでも礼拝施設

を設けるところが増えていきます。関東

では、新宿高島屋、ラオックス、イオ

ンモールなどに設置されています。ラ

オックスには、礼拝施設のほかに、ハ

ラール食品コーナーもあります。

徳増 ただし、まだ十分ではなく、さ

らに増設されることが期待されます。

人気観光地の富士山にも設置されてい

ません。また、ほとんどのモスクがす

でに満員の状態です。御徒町のモスク

のように、道路に溢れて礼拝するしか

なく、近隣の住民から苦情が出ている

ケースもあります。とはいえ、特定の

宗教のための施設を行政主導で造るわ

けにはいきません。たとえば、公園な

どを開放してもらうのもひとつの方法

ですが、そのためには住民の理解が不

可欠です。今後、相互理解を深めるた

めの活動に力を入れる必要性を感じて

います。

「認可」ではなく

「推薦状」を発行

そのほかに課題はありますか。

遠藤 食事の問題が大きいですね。イ

スラム教の教典・コーランには、酒、

豚肉など、食べてはいけないものや、

調理の方法などが書かれています。そ

れを守るのは信徒としての務めです。

今年2月、東京観光財団が

『TOKYO MUSLIM』というガ

イドブックを作成し、空港などで配布

しています。礼拝施設の場所のほか、

食に関しては、ムスリム専用のメ

ニューや、ムスリムのシェフがいるレ

ストランなどを紹介していますから、

とても参考になると思います。

—— 食事する場合は、シェフはムス

リムでないといけないのですか。

遠藤 それが望ましいのですが、必ず

しもそうである必要はありません。イ

ンドネシアやマレーシアでは厳格な基

準がありますが、旅行先の日本にまで

同じ基準を要求するのは困難です。正

式な宗教団体などから、きちんとした

ムスリム用の料理法に関する指導を受

けたシェフならいいことになっていま

す。ただし、調理する厨房を分けるこ

とは鉄則になります。

—— 日本ムスリム協会では、ハラール

認証を行っているのですか。

遠藤 依頼を受けた場合は、コーラン

具体的に指導し、基準をクリアしたレ

ストランに対しては推薦状を発行して

います。

—— 「認証」ではなく「推薦」にし

ている理由は何ですか。

遠藤 ハラール認証はインドネシアや

マレーシアで始まったのですが、それ

らの国では極めて厳格な基準が定めら

れています。原料、倉庫、運搬に関し

ても厳しい基準があります。当協会が

そこまで管理するのは不可能です。そ

こで、推薦状の形をとるとともに、な

ぜその施設を推薦するのか、細かな理

由を記載しています。正確な情報を提

供して、ムスリムに自分で判断しても

らうためです。

樋口 現状は、レストランなどは、ム

スリムの客を獲得しようというビジネ

スの意識が先行しています。けれども

当然のことながら、当協会はイスラム

教を理解してもらうことが理念です。か

ら、ビジネスのためにやっているわけ

ではありません。私たちが食に関わる

のは、ムスリムの同胞に、正確な情報

を提供するためです。初めて日本料理

を食べるムスリムは、アルコールや豚

肉が使われているかどうか判断できな

いでしょう。日本の事情をよく知る私

たち日本人ムスリムとしては、その同

胞のために説明する義務があるわけで

す。また、日本の料理関係者に、なぜ

ムスリムが食にこだわるのか、理由を

説明することも大切な責務だと考えて

います。イスラム教とは生活そのもの

であり、コーランで規定されている食

を守るものが、来世で天国に行く道な

のです。

—— 現在、推薦状を発行している施

設数はどれぐらいですか。

遠藤 羽田空港のトルコ料理店「ミセ

ス・イスタンブール」1カ所だけで

す。問い合わせはあるのですが、認証

ではなく、推薦状しか出ないことがわ

かると、連絡が来なくなるケースも少

なくありません(笑)。

関連団体が連携して

認証体制を浄化する必要も

—— 日本には、数多くのハラール認

証団体があります。どの団体の認定を

受ければいいのか、よくわからないと

いう声が聞かれます。

遠藤 残念ながら、きちんとした認証

が行われていないのが実状です。この

ままでは日本の信用が損なわれるので

はないかという危惧を抱いています。

すでに、ウェブサイトでは、ハラール

認証マークが貼ってあるレストランで



協会本部内にあるモスクは、トルコ共和国から提供された

食事をしたが、その正当性を疑問視するムスリムの声が上がっています。当協会を訪れる外国人ムスリムから、こんな安易な認証の状況でいいのかと、お叱りを受けることもあります。そもそも現在は、ハラールという言葉が安易に使われすぎています。ハラールとは、イスラム法（シャリーア）で認められたこと（もの）という意味で、極めて厳格なものです。ムスリム以外の人が安易に使用していい言葉ではありません。

ません。少なくとも、厨房が別の料理と同じ場所のレストランが名乗ってはいけないのです。
徳増 イスラム教に入信するということは、神との契約を意味します。そこに存在するのは神と個人の関係だけで、間に誰も介在していません。
 実は、イスラム法はとても寛大であり、母国では厳密に守っても、旅行先では許されることもあります。ただし、食をどこまで許容するかは個々の

ムスリムが判断することです。その判断の基となる情報は正確でなければいけません。認証マークを信用して食事したのに、正式なハラール対応とはほど遠いものだったというのは、大変な問題です。厳密性に欠ける認証マークの氾濫は、大きな国際問題に発展する危険性すらあるのです。

遠藤 ハラールには本来、ダブルスタンダードなどあってはいけません。そこで、ほかのイスラム宗教団体などと連携して、きちんとした認証に向けた指導を行う組織をつくり、現状の認証体制を浄化する必要性を感じています。できるだけ早くその組織づくりに着手するつもりです。その際に、先ほど申し上げたように、ハラール対応という言葉を使うのは問題だと思えますから、せめてムスリム対応といった表現にするのが望ましいのではないかと考えています。

—— 今後、日本ムスリム協会として、力を入れていきたい活動はありますか。

徳増 イスラム教への理解を深めていただくために、地域住民との交流に力を入れていきます。「隣人を大切に」は、コーランの教えでもあります。先日は、地元のお祭りのときに、子どもた



礼拝前の清めの場所となるウドゥーも備えている

ちのためにデーツなどのドライフルーツや飲みものを用意し、とても喜んでもらえました。また、当協会本部内の「日本イスラーム文化交流会館」で10月から、アラビア語、アラビア語書芸、IT・パソコンなどの「語学・教養教室」もスタートしています。ウドゥー（洗浄する場所）を備えた礼拝施設もあり、数多くのムスリムが訪れています。今後、日本人とムスリムが相互理解を図るうえで架け橋となるような活動を進めていきたいと考えています。

（文・黒木比呂史）

特集

車両の快適性向上

～乗り心地の良い車内空間の提供～

Focus

近年の駅大規模改良工事

【巻頭カラーグラビア】 新時代を迎えた仙台駅

コメンタリー JR東日本 パープルライン事業への参画について

information

- ・ JR九州が株式上場
- ・ 政府・国土交通省
「G7長野県・軽井沢交通大臣会合宣言」を公表

